

2025

8-9月

# はしかけニューズレター

2025 年度 第3号 通巻 184 号

2025 年(令和 7 年)10 月 31 日 発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 金尾・大久保・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

## ～ 目 次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会  
(4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊  
(9) 里山の会 (10) 植物観察の会 (11) たんさいぼうの会 (12) 田んぼの生きもの調査グループ  
(13) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (14) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (15) びわたん (16) ほねほねくらぶ  
(17) 緑のくすり箱 (18) 虫架け (19) 森人 (20) 琵琶湖梁山泊 (21) サロン de 湖流 (22) 水と暮らし研究会  
(23) 海浜植物守りたい

### 3. はしかけの皆さんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(11 月)

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

### 5. その他の事項

会員数 … 398人

グループ数 23グループ

(2025 年 9 月 30 日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

今回は発行が大変遅れてしまいましたこと、お詫び申し上げます。6 月中旬から一気に猛暑となり、いったいこの暑さはいつまで続くのか…と心配していたところ、9 月下旬から少しずつ涼しくなり始めました。ただ、県内ではあまりまとまった雨が降っていないため、川の流量は少なく、琵琶湖の水位もどんどんと低下しています。こうなってくると、アユやビワマスが無事に産卵できるんだろうかと心配になってきますので、そろそろまとまった雨が欲しいと感じています。私は自他ともに認める雨男ではあるのですが、最近はお出かけでも晴れることも多く、降っても小雨程度とあまり威力を発揮していません。周りからはもっと降らせてくれ！とお願いされるので、もう少し頑張って雨男パワーを降り注ぎたいと思っています。

以下は事務局からのお知らせです。

### ■びわ博フェス 2025 を開催します！

今年は 11 月 15 日(土)、16 日(日)の 2 日間でびわ博フェス 2025 を開催します！今年も多くのはしかけグループが参加し、ワークショップやステージ発表、ポスター発表を行います。それぞれの活動に取り組む方々との交流を通じて、琵琶湖や地域のことを一緒に考えましょう！

詳細は博物館 HP <https://www.biwahaku.jp/festival/2025.html> をご覧ください。

### ■はしかけ登録講座(オンライン・対面)の会員登録の手続きについて

2025 年 9 月 7 日(日)～2025 年 9 月 21 日(日)の期間にオンラインで、10 月 12 日(日)に開催しました対面で開催した講座ではしかけに新規登録していただいた方の登録手続きを現在進めております。名札等につきましては、10 月下旬～11 月上旬頃に送付予定です。お時間を頂き申し訳ありませんが、ご了承頂けると幸いです。

### ■2025 年度 次回のはしかけ登録講座は

次回のはしかけ登録講座まで少し期日がありますが、2025 年度最後のはしかけ登録講座はオンラインで開催予定です。少し期間が開きますが、お近くに、はしかけ活動に興味をお持ちの方がいましたら、ぜひお知らせください。

(オンライン)日時:2026 年 22 日(日)～2025 年 3 月 8 日(日)のうち任意の時間 (1 時間半程度)

※申し込みなど詳細は、琵琶湖博物館 HP をご覧ください。 [https://www.biwahaku.jp/event/2026/02/post\\_2035.html](https://www.biwahaku.jp/event/2026/02/post_2035.html)

## ■第 33 回企画展示「川を描く、川をつくる—古地図で昔の堤をさぐる—」開催中！

滋賀県(近江国)は日本国内でも有数の「天井川」が多い地域で、「はげ山」と呼ばれる草木の少ない山々が広がっていた歴史があります。そして、人々は水害・土砂災害から地域をまもるため、「堤」(川の堤防や山の土砂流出をとめる堰堤など)をつくってきました。

この企画展示では、17～19 世紀の琵琶湖集水域・淀川流域を中心に、災害の状況や土木工事の計画を描いた地図、治水の歴史に関わる道具や文書などを展示します。また、古い地図から歴史を研究する方法を紹介します。川をつくる人々のそばにあった地図を眺めて、歴史に埋もれた堤を見つけにいきましょう。期間は 2025 年 7 月 19 日(土)～11 月 24 日(月)で、企画展示室にて開催中です。企画展示の観覧には、別途観覧料金が必要です。ぜひ、ご観覧ください。

(担当:金尾滋史)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 50 名】

グループ担当職員:田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■6 月 15 日(日) 第 190 回定例調査 雨のため中止しました。

■6 月 21 日(土) 臨時調査「食材集め会」 場所:和邇川河口、守山市南湖湖岸 参加者:7 名

翌日の食材を集めるべく、採集を行いました。まず和邇川河口に集まり、アユ、ハス、エビ類等を狙います。投網には、アユ、ハス狙いなのにスゴモロコが。貴重な食材ですが、肝心のアユはとでも少なく、スゴモロコに混じって数尾のみ。ハスもその後無事に採集できました。タモ網チームはスジエビ、テナガエビを順調に採集。エビ豆ができそうな量になりました。なお特定外来生物であるカダヤシが 1 尾採れました。

日没後、南湖の湖岸に再集合し、エビ採り開始。石を照らしてテナガエビを狙います。こういった技術の習得は、大人より子どもの方が早いもの。大人が「見えん」「わからん」と言っている横で「とれた」「さっきより大きい」とエビを確保して行きます。計 20 尾ほど集め、この日はお開きとなりました。(文責:中尾博行)

■6 月 22 日(日) 湖魚料理体験会 場所:琵琶湖博物館生活実験工房 参加者:13 名

琵琶湖博物館の生活実験工房にて湖魚料理体験会を開催しました。例年であれば、琵琶湖を戻す会さんのエリ漁体験会で獲れた魚を提供いただき、料理するのですが、今年はイベントが中止となり、大ピンチ！というわけで前日に、有志で食材調達という名の調査を行いました(前の報告参照)。ハス、スゴモロコ、テナガエビ、スジエビなどをゲットして、翌日を迎えることができました。その他に当日朝にマキノで購入したビワマス、冷凍してあったワカサギとホンモロコ、自作ふなずし、野菜類、薬味類などを各自で持ち寄り、食中毒対策の掃除と消毒をして、調理開始です。

参加者は 13 名と少なめでしたが、和気あいあいとした雰囲気が進みました。料理会も回数を経るごとにみなさんの手際の良さが輝き、魚の処理係、天ぷら係、煮付け係などがそれぞれ自然に決まり、料理が各種同じぐらいの時間で出来上がり始めます。ハス、スゴモロコは塩焼き、オオクチバス、ブルーギルは塩、ガラムマサラを降って塩焼き。ハスの塩焼きは「骨切り」のおかげで骨が気にならず、パクパク食べられました。テナガエビ、ワカサギ、コアユ(数尾しかなかった)、ホンモロコとスゴモロコ、インゲンマメは天ぷら。ビワマスは塩焼き、あら煮。シンプルな塩焼きは皮がパリッと美味しく、身も味がしっかりしていて最高に美味しかったです。イワトコナマズはかば焼きとあら煮に。かば焼きは絶妙な焼き加減で、タレを何回もかけ、こんがり香ばしく、香りまでおいしく感じました。料理を作るのは大変なのに、食べるとあつという間…食べれば片付けもあります！何年もやっているおかげで、テキパキとあつという間に片付けました。昨年、片付けでご迷惑をかけましたが(飛び散ったウロコなど)、今年はうまく行ったのではないかと思います。(文責:竹元冨矢)

■7 月 20 日(日) 第 191 回定例調査 場所:芹川 参加者:30 名

猛暑の中の活動となりました。調査は多賀町、甲良町を対象に、総勢 30 名での実施となりました。熱中症の心配もあり、今回は調査時間をやや短縮して実施しました。芹川からはアブラハヤ、タカハヤの報告が多く上がっていました。サイズの関係で種の判別が難しい中での調査だったそうです。魚類以外にもタイコウチやトビケラ類といった水生昆虫が多種確認されたそうです。

水路でもタカハヤが確認されたほか、ヌマムツやヨシノボリといった魚も確認できました。小さいサイズの魚が多く、こちらタカハヤとアブラハヤの判別が難しかったようです。甲良町方面では、水路で大量のヌマエビ類が確認され、水生昆虫はコオイムシやナベバタムシ等が生息していました。魚はカワムツやヌマムツのほか、オイカワが確認できました。

短い時間の中、皆様が精力的に活動してくださったこともあり、様々な報告が上がる結果となりました。(文責:市原龍)

#### 【今後の予定】

9 月から 11 月は定例調査や観察会支援、びわ博フェスへの出展などを予定しています。詳細は追ってご連絡します。



## (2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ担当職員: 島本 多敬

### 【活動報告】

近江 巡礼の歴史勉強会の活動はありませんでした。

### 【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を進める。

### 【番外の活動】

・6/21～6/22にかけて「みなくち子どもの森」で行われた公益財団法人日本自然保護協会と甲賀市の共催による第 621 回 NACS-J 自然観察指導員講習会にメンバー 2 名が参加した。自然観察指導員は「自然観察からはじまる自然保護」を合言葉に、地域に根差した自然観察会を開き、自然を守るための仲間をつくるボランティアリーダーです。今年度は甲賀市で開催され近畿地方から 57 名の参加者がありました。巡礼の歴史勉強会にとって直接関係する分野ではありませんが、人との関わり方や説明の方法など、今後の活動にとってたいへん有意義な講習会であった。

(福野憲二)



## (3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14 名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

### 【活動報告】

■ 2025 年 5 月 25 日(日) 琵琶湖博物館 参加者 6 名

オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

■ 2025 年 6 月 22 日(日) 琵琶湖博物館 参加者 6 名

オープンラボでスケッチ。博物館敷地で吟行句会もしました。

■ 2025 年 7 月 20 日(日) 琵琶湖博物館 参加者 2 名

博物館敷地で吟行をしました。

○博物館 de 俳句

7 月 20 日のスケッチの会は博物館の敷地で俳句のタネを見つけました。写真の臭木の花は歳時記では初秋の季語に分類されています。生活実験工房の前の田んぼでは稲の花も咲いていました。こちらも初秋のものとされています。6 月から暑い日が続いていましたが、8 月 7 日には立秋を迎えます。

この日は湖から吹いてくる風が涼しく、比叡山の山壁がくっきりと見えていました。ちなみに「涼しい」は夏の季語です。夏の名残と秋の気配とがまじりあって興味深く思われます。

※ 写真は博物館の臭木の花と 7 月の湖。





## (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25 名】

グループ担当職員:大久保 実香

### 【活動報告】

■5月31日(土) 参加者:4名

工房周辺に生えているカラムシが育ってきたので、オヒキしました。時期的にちょうどよかったようで、なかなかよい繊維がとれました。

また、工房のワラをもらってミゴボウキを作ってみました。紐の結び方がよくわからなかったもので、再挑戦しなくては。

■6月11日(水) 参加者:8名

各自作業。綿くりやカラムシの糸績みなど。また、展示に使った麻の芋があったので、糸にできるよう白水(米糠を入れた水)につけました。

■6月28日(土) 参加者:7名

カラムシの糸作りの必需品、コキバシを作りました。篠竹の中に竹皮を縄にしたものを入れて作ります。竹皮は固いので縄になうのが大変でした。

また、ディスカバで使われていた座布団の補修をしました。ボロボロの布から取り出してみると、中綿は木綿でした。一度全部広げて綿をほぐし、擦れて糸状になったところはハンドカーダーでほぐして綿にもどしました。

■7月9日(水) 参加者:6名

本日は草木染め。インドアカネとクチナシで赤と黄色に染めました。この糸を使って織るのが楽しみです。



6月11日麻を白水につける



6月28日座布団再生

### 【活動予定】

■織姫の会

10月25日(土)、11月5日(水)、

12月10日(水)、20日(土)

11月16日(日)びわ博フェス「木でちっちゃなカゴを作ろう」

(文責:辻川智代)



7月9日草木染め



## (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8 名】

グループ担当職員:里口 保文

### 【活動報告】

■2025年6月の活動

○野外調査

参加者: 8名

場所: 織山の安土町側から山頂の観音正寺までと、山の反対側の五個荘側の下部

日時: 6月1日(日) 10:00~16:40

調査の目的: 地質図を確認しながら三種類の溶結凝灰岩を採取して特徴や違いを調べたい。

クリノメーターを使って露頭を測定し詳しく観察したい。

調査で分かったこと。感想:

今回の調査では、各岩石にどのような捕獲岩が含まれているか発見できた。

安土側にある瓶割山溶結凝灰岩には黒いチャート。五個荘側にある安土溶結凝灰岩には赤いチャート。

五個荘側にある瓶割山溶結凝灰岩には赤と黒のチャートが含まれていたことがわかった。  
各岩石に2種類のチャートが含まれている事は、どの年代に噴火をしているかの指標にも繋がるかもしれない。  
まだまだわからないことが多いので勉強していきたいと思った。  
また、山頂の観音正寺にある瓶割山溶結凝灰岩を道路から遠望すると、大きく平滑な岩で濃い青灰色で、流離構造のような皺があった。  
流紋岩質マグマが特異的にゆっくりと冷えてできた岩石の可能性もあるとのことだった。  
同じ瓶割山溶結凝灰岩でも下にある露頭は、火山灰や噴石が溶結して急激に冷えることからできる細かい節理が発達しており、白く風化しているものが多かった。  
岩石の冷却の仕方が違うのは何故なのか不思議に思った。  
クリノメーターを使用して柱状節理のようになった瓶割山溶結凝灰岩の露頭も測定する事ができた。  
今後も、琵琶湖コールドロン内にある他の地域の溶結凝灰岩も調査して、どのような捕獲岩があるか節理や流離構造があるかなどに注目して調査していきたい。

#### ■今後の活動予定

- びわ博フェスに参加 11月
- 岩石持ち寄り勉強会 1月
- 地学研究発表会 2月
- 体験学習プログラム【わくわく探検隊】 3月



## (6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

#### 【活動報告】

- 活動日 6月21日(土)
- 参加者 7名
- 活動内容 撮影会「からすま半島の四季」(夏編)

快晴で大変暑い日でした。今年度のテーマである「烏丸半島の四季」(夏編)を写真におさめました。参加者それぞれの視点で植物や風景を撮りましたが、夏の暑さ(気温)を写真で表現する難しさを改めた感じの一日でした。また、烏丸半島は、今後開発が計画されているそうですので、今の姿を残しておくことも私たち温故写新の大切な役目と考え、空き地の全景も撮影しました。

- 活動日 7月19日(土)
- 参加者 6名
- 活動内容 第33回企画展示「川を描く、川をつくる ―古地図で昔の堤をさぐる―」オープニングセレモニーの記録撮影。  
亀田館長や来賓の方々の挨拶、そして企画展の中の様子を記録として撮影しました。

(谷口 雅之)



## (7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大久保 実香

#### 【活動報告】

びわ博フェスでの発表について、相談しました。ポスター展示のほかに、展示交流にも挑戦して、来館者の皆さんからのご意見などを聞いてみようかと考えています。

#### 【活動予定】

地元の人たちが運営している資料館の訪問や、滋賀県内での聞き取りと聞き書きの活動を予定しています。地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保 実香)



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 山川 千代美

### 【活動報告】

#### ■野洲川でのフィールドワーク

日時: 7月6日(日) 9:00~12:00

場所: 野洲川(滋賀県湖南市) 参加人数: 6名

活動内容: 野洲川で発掘・地層観察などのフィールドワークを行いました。この日は気温が高く猛暑日になることが予想されたため、午前中の活動としました。発掘では貝化石や広葉樹の葉化石、ヒノキ科の葉化石、トウヒの球果化石など様々な化石を発掘しました。発掘した化石は一つひとつ位置を記録し、貝化石については発掘時の状況(向きなど)の記録も行いました。今後も継続的にデータを蓄積し、当時の古琵琶湖環境を考える技術を身に付けていきたいと思います。



野洲川での発掘活動



発掘した貝化石



### 【活動予定】

#### ■未定



## (9) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 奥田 岬

#### ■5月29日(木) 潮干狩り 御殿場浜 会員4名

琵琶湖の起源は、現在の三重県阿山町あたりだそうですが、ゆかりある三重県の浜辺に「恒例の潮干狩り」に凝りもせず今年もやってきました。ここ数年は釣果ならぬ狩果?は期待できないことが続いていましたが、湖風ならぬ潮風に身をさらすことでよみがえる感覚を求めて(この懐かしさは、生命の起源に遡るのかもしれませんが)浜辺を訪れています。

過去のニューズレターでも報告しましたが、お馴染みの御殿場浜は近年の海岸防災工事で、生物生息環境が様変わりしてしまいました。それでも砂の中を掘っていると、稚貝の確認はできました(写真はありません)。さまざまな貝殻たちが、緩やかに波に揺られて、長い物質循環の旅の最中でした。少しだけお土産にもらってかえりました。

ともすれば、固有の生物体の一生で考えてしまうことを身につけてきましたが、同時進行している2つの物語のように、生きものの連続性の中でつながっている「こと」を忘れずにいたいものです。



#### ■6月14日(土) 夏の里山体験教室 下見

前日から大雨になったため、博物館職員のみでの下見となりました。雨だったからか見つけられた虫の数も少ないように感じました。

#### ■6月22日(日) 夏の里山体験教室 本番 一般11名、会員2名

天気が心配されましたが、曇りでした。暑さに気を付けながら昆虫採集・観察を行いました。参加者は熱心に虫取り網をもって昆虫採集を行い、捕まえた虫について、昆虫に詳しい学芸員や地域の方から説明を受けました。「バッタにもこんなに種類がいるんだ」、「見たこと・聞いたことはあるが名前と容姿が一致した」といった感想が聞かれました。

午後からはハンモックづくりを行いました。自分たちで場所を決めて設置しました。木陰で気持ちよく揺れながら、鳥の鳴き声を聞くなど穏やかな時間を過ごせました。

近年天候に恵まれず、実は夏の体験教室ができるのは4年ぶりのようです。虫取りを楽しみにされている参加者も多く、開催出来てよかったです。



## (10) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

5月中旬から6月にかけて、これまでにないほどの高い気温が続き、近畿地方は例年より2週間も早く梅雨明けしてしまった。昨年は春の気温が花の開花と虫たちの活動が上手く会わず、果物の不作が相次いだ。今年は、暑すぎて野菜の苗が上手く育たない?とか。これからは「寒さに強い」のではなく、「暑さに耐えられる」熱暑対策に向けた品種改良が行われるのだろうか。事実、何年か前に、耐暑性のお米の名前を聞いたが、忘れてしまった…。

### 【活動報告】

■6月1日(土)「お出かけ観察」高取山 多賀町 10:00~14:30すぎ 参加者4名

この日は、気温16℃。家を出るときには22℃あったのに、途中雨にも降られ、曇り空と共に気温は急降下。高取山は、地域の方々やボランティアの方で整備された里山施設。メンバーの一人がここでボランティアをしていることもあり、案内してもらうことにした。ここは少し標高が高いことや山に囲まれていることで、平地より気温が低いらしい。このササユリはやっと蕾がふくらみ始めた頃だった。また、ここは、種を蒔いたり苗を増やしたりすることなく、ササユリなどが自然に増えるのを待っているとのことだった。色々な方法で自然が戻っていくのを見られるのは、嬉しく、心強い。また、新しいメンバーが増えたことも心強いかった。



この日、観察できた植物を自分たちの覚えとしてここに記録しておく。FL・花、FR・結実、ツ・蕾、メ・芽出し  
センボンヤリ(FR・ロゼット、秋にも咲く?)、ウメドキ(雄株、FL)、ツクバネウツギ(がく片5?)、コツクバネウツギ(FL、がく片2~3)、ソゴゴ(FL、雄株・雌株とも満開)、ガマズミ FR、クヌギ、クリ、ニガイチゴ FR、ナガバノモミジイチゴ、ヤマウルシ FR、モチツツジ FL、コアジサイ FL・満開、イヌツゲ、スノキ(FR、葉を噛んで酸味を確認、葉の大きさも不揃い、ナツハゼと比べて)、ナツハゼ(ン?実が無い...)、ウツギ FL、タツナミソウ FL、ヤマトウバナ FL、ショウマのなかま(たぶんトリアシショウマ)、ホタルブクロ、ガンピ FL、カナビキソウ FL・FR、ミヤコグサ FL・ツ、ソクシンラン(FL、ツ、ユリ科)、ササユリ FL・ツ、シライトソウ FL・満開、ホソバノヨツバムグラ FL、西洋芝 FL、キッコウハグマ(ロゼット)、ノギラン(ツ)、ショウジョウバカマ FR、など。葉のみで、調べたが分からないものもあった。

貴重な種もあり、これから人々の手で守られながらもこの自然が残って欲しいと強く願うばかりだ。

この日も、帰り際にシライトソウやノギランを見るのに夢中になりすぎて、時刻を見たら14:15!?、帰らなきゃ!新メンバーの方が居るのにまたやってしまった…。お出かけのときには、9:00から始めると12:30頃に終われるのかもしれない…。?

■7月6日(日)「持ち寄り観察」博物館 実習室2 10:00~12:30すぎ 参加者3名

まず、9月~12月の予定を決めた。1月~3月分は、また12月に決める予定。

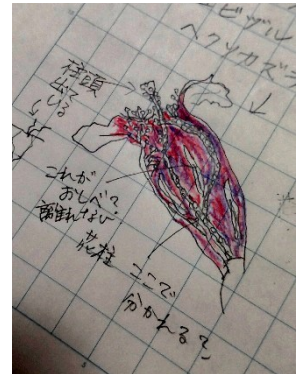
博物館の駐車場で採取したシマスズメノヒエ、タチスズメノヒエ、アメリカスズメノヒエを見て、合っているかどうかを図鑑と見比べた(アメリカスズメノヒエは、上部に突き出た穂が二股に分かれ、他にも似たものがあるので)。

メンバーが持参したカツラ、ハナイカダ、エゴノキ、栽培している珍しい花の実などを見せてもらい、観察スタート。

化石にも詳しいメンバーによると、エゴノキの実には上部が斜めに欠けていて縦筋があるとのこと。この欠けて出てくる部分は実が落ちるときの付け根部分ではないのかと考え、実をスライスして実体顕微鏡で見た。実が若いせいかわかりませんが、実と皮との境界部分がく片的な場所から考えると、やはり種子の付け根が斜めに(精米したときにお米の上部が斜めになる形)になっている気がする。でも、普通は一番てっぺんが付け根になるはずではないのか？ また疑問が増えた。そのため、実が熟し落ちる頃に再度観察することになった。そのときに、種子の縦筋も確認したい。

その後、ヤマアジサイの小花、エビヅルの雄花、ヘクソカズラの花を見た。

ヘクソカズラは、どこにでもあり見慣れているのに花を分解して見たことがないので、一度やってみた。花の上部がほとんど閉じていて、何か細く出ている。閉じている？！ 口の長いものだけが蜜を吸える形だ。自宅のヘクソカズラにはよくオオスカシバ(スズメガ科)が来ている。花の一部を裂いてみて驚いた。花のひらひらした端と外側が白いだけで、内側は全て紅色(深紅)、細かい腺毛(触ってもべたつかないので蜜などは出ていない)がキラキラ光っている。花の外に出ているのは花柱で、何か透明のぷつぷつが下からびっしり付いている。雄しべは取ろうとしても花弁の内側から剥がれず、観察失敗。これも図鑑と照らし合わせたが、分からないことが多かった。普段見慣れてしまっているものも、図鑑と照らし合わせながら答え合わせのように一つ一つ見ていくことの大切さを再確認した。



#### 【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。  
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。
- 8月、2月は、例年お休みしています
- 11月 2日(日)「お出かけ観察」 甲賀市 みなくち子どもの森 9:30~12:00 すぎ
- 12月 7日(日)「持ち寄りの観察」 博物館実習室など 10:00~12:00 すぎ
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



## (11) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

#### 【活動報告】

日本珪藻学会第46回大会が国立科学博物館(茨城県つくば市)で行われ、会員2名と影の会長が参加しました。今回も影の会長および会員による研究発表がありましたが、会員名義での発表はありませんでしたので詳細は割愛します。

会員の富小由紀さんが投稿していた古琵琶湖層群蒲生層の化石珪藻の論文が、日本珪藻学会発行の *Diatom* 誌から6月19日にオンライン出版されました。これが富さんにとっては2本目の主著論文、たんさいぼうの会会員名義の主著者による21本目の論文になります。本論文は、多賀町四手で展開されてきた古代ゾウ発掘プロジェクトで得られた珪藻化石のうち、環境指標性が知られている現生との共通種の種組成を用いて、堆積当時の環境を推定しようとする野心的な内容です。同一種でも生態が変わっている可能性があるので強い議論はできませんが、水生植物が繁茂する浅い水域で、水質は中栄養から富栄養で弱アルカリ性であると推定されました。これは堆積状況や植物・貝類など他の化石とおおむね調和的な推定結果です。

富小由紀・大塚泰介・林 竜馬・黒口保文・堂満華子. 2025. 古琵琶湖層群蒲生層最上部産の珪藻化石を用いた古環境復元.

*Diatom* 41: 1-10. DOI: <https://doi.org/10.11464/diatom.41.1>

諸般の事情により前作から6年という長い時間を要しましたが、見事にフルペーパーとして出版することができました。冊子版は年末発行予定です。

他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

#### 【活動予定】

9月23日(火・祝)に、たんさいぼうの会第80回総会を、琵琶湖博物館研究交流室で開催しました。報告は次号で行います。



## (12) 田んぼの生きもの調査グループ

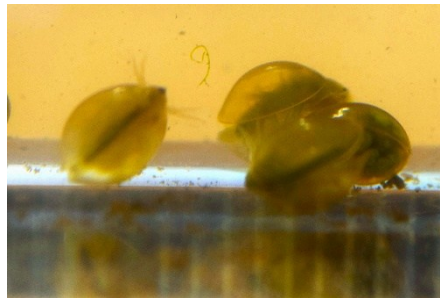
【活動報告日の活動会員数(のべ) 32 名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

本年度は、まだ調査したことのない3次メッシュが多く残る蒲生郡日野町および甲賀市水口町の水田と、カイエビの記録はあるもののトゲカイエビの空白域になっている近江八幡市の白鳥川流域の水田を中心に、大型鰓脚類の分布を明らかにする調査を実施しました。

### 【活動報告】

- ・5月28日に、日野高校から近江鉄道朝日野駅にかけての日野町西部の5地点で、エビ類の分布調査を行いました。5地点すべてにおいてカイエビの生息を、3地点でホウネンエビの生息を確認しました。また、アメリカカブトエビとタマカイエビも、それぞれ2地点の水田で見つけることができました。一方、この地域でトゲカイエビの生息は確認できませんでした。
- ・6月1日に、JR貴生川駅周辺の甲賀市甲南町から水口町にかけての6地点で、エビ類の分布調査を行いました。気温が20℃に届かない肌寒い日でしたが、6地点すべてにおいてホウネンエビとカイエビの生息を、5地点でタマカイエビの生息を、さらに、4地点でトゲカイエビの生息を確認しました。一方、この地域でカブトエビ類の生息は確認できませんでした。
- ・6月8日に、近江八幡市を流れる白鳥川流域の5地点で、エビ類の分布調査を行いました。5地点すべてにおいてカイエビの生息を確認できましたが、この日の調査の主目的であるトゲカイエビの生息を確認できたのは2筆のみでした。6月半ばに近い時期だったためか、アメリカカブトエビが見つかったのは2筆、ホウネンエビが見つかったのも4筆のみでした。
- ・5月中旬から6月中旬にかけて、愛荘町、東近江市、野洲市、守山市、栗東市、草津市の水田において会員有志による追加の分布調査を行い、上記3回の合同調査とあわせてこれまでに調査したことのない39の3次メッシュコードに含まれる水田において、新たにエビ類の生息を確認しました。
- ・5月23日に東近江市で採集したタマカイエビと、6月2日に大津市で採集したアジアカブトエビについて、水槽で泳ぐ姿の撮影を試みました。



- ・7月13日に、琵琶湖博物館実習室1で本年度に採集したサンプルの同定会を実施しました。

### 【活動予定】

これから、標本の同定作業の結果を整理・分析する作業にとりかかります。本年度調査の結果報告会については、改めてメールで日程調整・連絡を行う予定です。

(山川 栄樹)



## (13) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5 名】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

### 【活動報告】

#### ◆6月の活動 6/18(水) 6組(幼児8名、大人7名)

梅雨の合間のピカピカに晴れて暑い日。ジャガイモの葉っぱが枯れ始め、そろそろ堀ろうとなりました。スタッフで間の雑草を抜いて、ジャガイモがわかりやすくなります。バンダナおじさんに大きなスコップで掘ってもらって、子どもたちがお母さんと探すと、大小のジャガイモが見つかります。宝探しのよう、ジャガイモを見つけてバケツに入れていきます。時々ミズや虫たちも出てきて楽しいジャガイモ探しになります。

田んぼの稲はしっかりと伸び、トンボがやってくるようになりました。子どもたちは虫取り網を持って、トンボを追いかけます。上手に取れたり取れなかったり。ちこあそに来るとなぜか誰かが網を持って追いかけ始め、それを見た他の子どもも網を持って追いかけます。子どもの「学ぶ」は「真似る」ことなんだなあと感じさせられます。

トンボをはじめとして虫たちも暑さをよくわかっていようです。涼しい午前中に飛んでいたトンボたちは、午後になるとどこかで休んでいるのかいなくなりました。「朝はたくさん飛んでいたのにねえ」という会話が必ず午後は交わされます。

#### ◆7月の活動 7/16(水) 9組(幼児11名、大人14名)

連日の猛暑日が続いていましたが、この日は朝からどんよりとした曇り空。親子が集まり始めた10時過ぎ、ザーと大粒の雨が降りました。屋根の下で、朝に捕まえた虫たちを観察していると、ピタッと止まりました。その後は晴れても曇っても蒸し暑い日でした。

今日は、トンボとチョウたちのパラダイスでした。ウスバキトンボ、オオヤマトンボ、セスジイトトンボ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、アゲハチョウ、ジャコウアゲハ、アオスジアゲハ、シジミチョウ、ウンモンズズメなどがいました。子どもたちは虫取り網を振り回して、飛ぶ虫たちを追いかけていました。

ガチャコンポンプの水遊びも大盛り上がり。お母さんがガチャガチャと水を出して、バケツへ注いだ水を触ったり、ホースで水をかけたり、たらいに腰まで浸って楽しんだり。ちこあそに何度もきてくださっているお家は、水遊びを想定して、着替えを持参しておられます。

8月はちこあそがお休みなので、次は9月ですね。

#### ◆ちこあその絵本をプレゼントしています

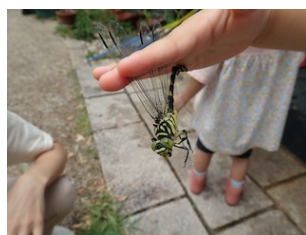
ちこあそで、自分で作るスタンプカードがあります。3回スタンプがたまると、ちこあその絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいなどの思いです。ぜひ3回来てください。



6月 ナナフシモドキが脱皮



6月 ジャガイモ掘り



7月 オオヤマトンボ捕まえ  
た



7月 バケツでチャポン

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

| 活動月 | 実施日、時間                   | タイトル    | 内容                                                                                                                                     |
|-----|--------------------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月 | 10月15日(水)<br>10:00-14:00 | ちこあそ10月 | 定員10組<br>予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。<br><br>毎月おおよそ第3水曜日に行っています。<br>ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど<br>やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。 |

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



グループ担当職員:大塚 泰介

■2025 年 5 月 24 日(土) 参加者:11 名、学芸員:2 名

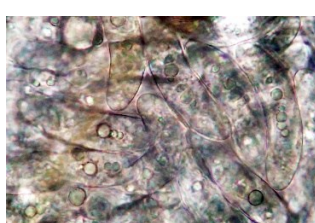
## 5月24日の活動の様子

[illegible]

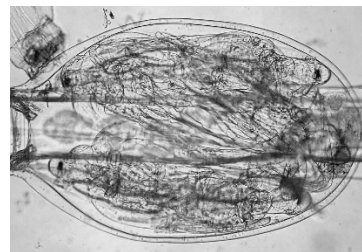
## 5月24日の活動で見つかったプランクトン



## カイメンの幼生



## Coelosporidium と感染したゾウミジンコ



育房内のノロの子供

■2025 年 6 月 22 日(日) 参加者:11 名、学芸員:1 名

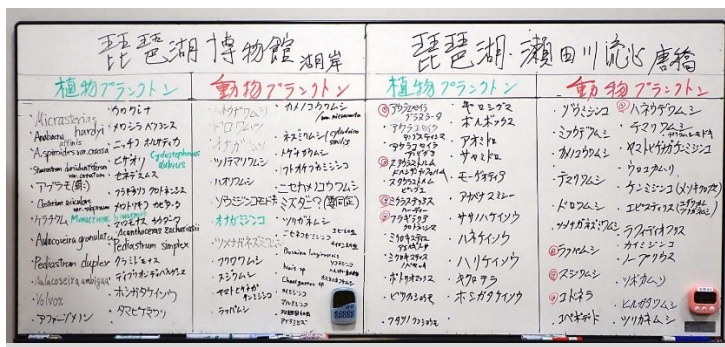
## オオマリコケムシとその幼生



## 6月22日の活動の様子



オナガミジンコ。夏に多い。



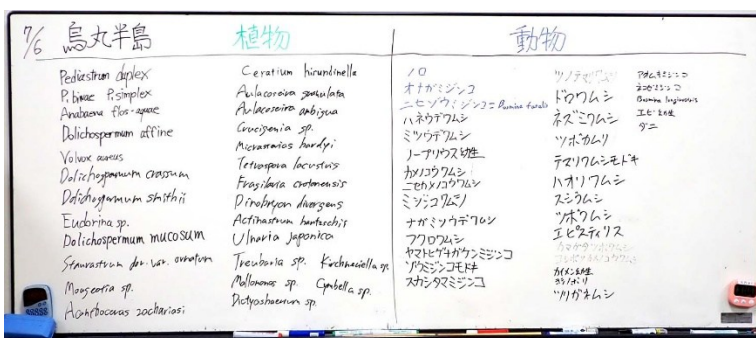
6月22日の活動で見つかったプランクトン

## ■ 2025年7月6日(日) 参加者:9名、学芸員:2名

博物館前のプランクトンを観察しました。オナガミジンコや *Bosmina fatalis*、ミジンコワムシなどが発生しており、すっかり夏の様相でした。



7月6日の活動の様子



7月6日の活動で見つかったプランクトン

## 【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



## (15) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

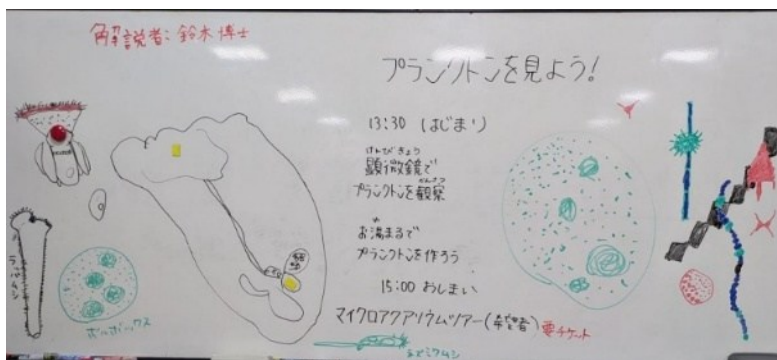
グループ担当職員:渡邊 俊洋、桑原 康一

## 【活動報告】

### ■ 6月14日(土) プランクトンを見よう! 参加者 28名

プランクトン博士鈴木学芸員にお越しいただき、プランクトンとは?と参加者の声を聞きながら、大きさじゃないよと子どもたちにわかりやすく伝えていただきました。顕微鏡の使い方をレクチャーして、観察スタート。朝採れ新鮮な?プランクトンを熱心に観察し、スケッチして、模型作りをしました。

参加者は博士にたくさん質問をし、中には学芸員になるきっかけを質問される保護者の方もいました。



## ■7月12日(土) 骨にふれてみよう! 参加者 24名

ほねほねクラブの皆さまにゲストティーチャーとしてお越しいただき、ほねほねクラブさんに提供していただいたイノシシ、シカ、アナグマ、アライグマ、ネコの骨格標本を参加者の皆さまに触れていただきました。

骨ってなあに?の質問に手を挙げてバッチリ答えてくれた子がいてびっくりしました。話の後は観察スタート!はじめは怖くて触れない子もいましたが、慣れてきたら脊骨をパズルのように繋げるようになっていました。

次はほねほねクラブさんが準備していた挑戦状にチャレンジ!同じ骨を見つけたり、一部分だけを見つめたり、骨をしっかり観察出来るようになっていきます。各テーブル毎に、見比べたり相談したり、たまたま居合わせた参加者同士で学び合っていて、素敵な時間になりました。

最後に紙粘土で模型を作りました。作った模型の骨の名前をほねほね博士から教えていただきました。覚えていてくれたら嬉しいです。



## (16) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

### 【活動報告】

#### ■5月24日(土) 参加者:2名

イノシシの頭の徐肉、鳥の徐肉を行いました。

#### ■6月7日(土) 参加者:2名

イタチの徐肉、鳥の骨のクリーニングを行いました。

#### ■6月22日(日) 参加者:5名

タヌキの解剖、アライグマの解剖、リスの骨のクリーニング、豚足の徐肉、キツネ組み立てを行いました。

今回制作した豚足は、以前に制作した標本を制作するために購入した時の残りの豚足だったのですが、特に制作の目的もなかったのですが、今回制作しながらメンバーとお話している内に、来館者の方との交流イベントでの利用方法が思いつき、思いがけず制作の目的ができて良かったです。

メンバーと何気なく話していた事から利用のアイデアが自然と出てきたので、みんなでやる事の良いところを感じられてとても良い時間になりました。

#### ■7月5日(土) 参加者:2名

イノシシの頭の徐肉、豚足の徐肉、次週に行う予定のわくわく探検隊の準備を行いました。

#### ■7月12日(土) 参加者:3名

琵琶湖博物館において、わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう!」をはしかけの「びわたん」と共催しました。

プログラムとしては、まず動物一体分の骨をじっくり観察してもらった後、骨のレプリカをお渡しして、そのレプリカと同じ部位の骨をたくさんある骨の中から探し出してもらい、その後今まで見てきた骨の中から気に入った骨の一つを選んでいただいて、その骨を紙粘土で作ってもらうというものでした。

ご参加いただいた皆さんが興味深く、骨を観察してくださり、動物ごとに見比べたりと積極的にプログラムに参加いただいている様子がとても印象的でした。

後半のレプリカ作りも、よく観察して特徴をとらえたものを作っておられたので、とても感心してしまいました。

### 【活動予定】

11月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



## (17) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

■6月28日(土) 参加者: 11名

活動内容: 玄米ピロー作り(琵琶湖博物館・実習室2)

昨年は小豆を使って「小豆ピロー作り」を実施した緑のくすり箱でしたが、小豆の他に、いろいろな穀物でピロー作りができるということを知り(穀物カイロ)、今年度は「玄米ピロー」を作りに挑戦しました。お米不足の中、玄米を調達できるのか心配しておりましたが、なんとか大丈夫でした。玄米ピローを作るにあたり、いろいろと下調べをしてみました。玄米にプラスして、塩、米ぬか(炒ったもの)、ドライハーブなどを入れて作っているものがあり、メンバーたちがそれぞれ材料を揃えてくれました。ピローに使う布は、オーガニックコットンやダブルガーゼなど肌に優しい布を揃えてくださいました。

最初に玄米ピロー作りのことを説明していたときに、以前作った小豆ピローの中身を肥料代わりに庭の土に混ぜたら、その小豆から芽がでた!と話してくれたメンバーがいました。小豆ピローは2年ぐらい使用することが出来て、レンジで温めて使いますが、何度も使った小豆を肥料にと土に混ぜたら、なんと発芽したとのこと。またその芽が育って、小豆ができた、また小豆ピローが作れるね、エコだね、すごいなあといった声が聞かれました。

玄米ピローは、小豆と違い、粒が小さいので肌への当たり方が優しいと感じました。あと好みもありますが、小豆よりもレンジで温める秒数が短くてもよいと感じました。使える年数は違うかもしれませんが、またそれはしばらく使ってみてから報告したいと思います。



### 【参加者の感想】

- ・今回も手触り、玄米の程よい重みとよいピローができました。中に入れたハーブもとても香りがよく癒されます。
- ・何十年かぶりに使ったミシン、楽しかったです。作ったピローは腰の温め用に使います。
- ・小豆に続いての玄米ピロー作り、身近な材料で体を温めるのがいいなあと思います。使用後の小豆の芽吹きはびっくりしました。植物の底力を感じました。
- ・ガーゼのフワフワ感から玄米とハーブの香りで、ぐっすり眠れました。(レンジ10秒で使用)
- ・腰用の特大の玄米ピローにしました。糠を入れて良い香りがするなあと思っていたら、すぐに眠ってしまい、それ以降の記憶がありません。あっという間に夢の世界へいったようで気持ちよかったです。
- ・無心でチクチク縫物をするのは楽しいです。おしゃべりしながらも、なお楽しかったです。布の選択もよく、触っただけで癒されました。
- ・身体のツボの場所も教えて頂き、米ぬかやティートリーなどの香る玄米ピローを活用して健康に過ごせそうです。

■6月28日(土) 参加者:11名

活動内容:藍の畑の雑草取り(琵琶湖博物館・生活実験工房)

玄米ピロー作りの後、生活実験工房で育てている藍の畑の雑草取りを行いました。暑い日だったので、無理せずにやろうと決めて、皆で30分ぐらい行いました。生活実験工房では、ちょうど八重のドクダミの観察も出来て、初めて見たメンバーは、その可憐な姿に感動しておりました。7月にはいよいよ育てた藍を使って、藍染めをします。



## (18) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:今田 舜介

■5月10日(土)11時~15時 参加者:6名 高島市朽木

5月の例会は、ブナ林での昆虫観察を行いました。前日の雨で実施が危ぶまれましたが、奇跡的に天気が回復し、現地に到着したころには薄日が射して来ました。林道の終点まで上がり、そこに皆さん車を停めて調査を開始しました。林道は春のブナ林に囲まれ気持ち良かったのですが、周りはアセビ、エゾズリハ、ヒサカキなど虫が集まる樹木が少なく成果は上がりませんでした。1時間ほど歩いて林道終点で折り返しました。目的のルリクワガタ、コルリクワガタの姿は見ることが出来ませんでしたが、皆さん春の山の自然を満喫されたようです。無事午後3時過ぎに集合場所に戻り、解散しました。



■6月28日(土)11時~22時 参加者:8名 東近江市永源寺地区

6月の例会は永源寺町石樽峠周辺での採集および茶屋川上流での灯火採集を実施しました。道の駅で集合後、峠に移動し車を止め道路沿いに皆さん採集を開始。周辺の植物をスーピングすると多くのエダナナフシに混じってトビナナフシが得られました。少しずつ下山しながら3時まで採集を続け、その後次の茶屋川に移動。午後7時頃までには灯火採集だけに参加される会員も合流され、終了時間の10時まで灯火採集を楽しみました。その後道の駅で現地解散して6月の例会は終了となりました。



また、「虫架け通信」80号、81号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

## 【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



## (19) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

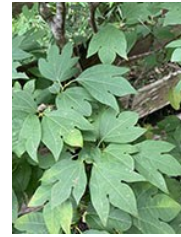
グループ担当職員:林 竜馬

### 【活動報告】

■5月31日(土) 北比良観察会 参加者、(会員)6名、(博物館職員)林

5月24日に開催の予定だったが、荒天のためこの日に変更した。場所は、森人メンバーのYさんがお住まいの旧比良リフト山麓の住宅地で、自宅庭と近隣地区を案内してもらった。まだ豊かな自然が残っており珍しい植物種も多く、滋賀にもまだこんな所が残っている…と感動した。他では見られない植物が一つひとつ手に取って確認できるのがとても嬉しい。春の終わりに近い時期ですが、「山麓は半月程度季節が進むのが遅い」と感じられ、ちょうど木々の花々は満開が多く、新葉もやっと充実した枝葉に生長したところ、との印象を受けた。

博物館近辺では見られない比較的珍しい観察した植物を挙げると、ブナ ネジキ シンジュ イボタノキ ゴンズイ リョウブ アカシデ ウラジロノキ クロモジ ヤマコウバシ タムシバ タナサワフタギ ウリハダカエデ アクシバ イヌザンショウ ウツギ ツルアリドオシ コナスビ ササユリ ミヤマナルコユリ タツナミソウなど。滋賀に残された貴重な土地の一つだと思った。



左から ブナ、ヤマコウバシ、クロモジ、シロモジ

■6月14日(土) 10:00~12:00 参加者(会員)4名、(博物館職員)林

大宮林道観察会が雨天中止になったため、博物館内研究交流室にてミーティング。その後有志で樹冠トレイルや森の中を歩きフォレストマスターのクイズ問題について考えた。

1. グループメールの不具合についてどうすればいいかの意見交換
2. 7月以降のスケジュールを決定
3. びわフェスの内容について話し合い
4. フォレストマスター9・10月号についての話し合い

■6月28日(土) 10:00~12:00 参加者(会員)5名、(博物館職員)林

前回に引き続き、研究交流室にて下記の内容についてミーティングを行った。

1. びわフェス申し込みを前に、ポスターの見直しやワークショップをどうするかなどの参加内容を検討
2. フォレストマスター9・10月号の内容について話し合い

■7月12日(土) 10:00~13:40 参加者(会員3名)(博物館職員)林

みなくち子どもの森自然館見学

開館して25年になるみなくち子どもの森を訪れた。守山の地球市民の森と同年生まれだ。

入口にあるメセコイア並木の育ちが素晴らしい。これは土地が肥沃で、きっと水脈がしっかりしているお蔭と直感した。もう30mに達する勢いである。1本だけ混植されたヌマスギ(ラクウショウ)も負けじと同じように生長して、径2cm以上のしっかりした実を沢山つけていた。今は濃緑一色だが、秋の黄葉時が楽しみである。

近くのコブシも大きな実が鈴なり。生まれて初めて見る体験ができた。見回りのスタッフさんから、ヤマモモの黒く熟した実をいただいたが、こんなに甘く美味しいのかと幸せな気分を味わった。(写真|コブシ)



館内に入ってまず1階を見学。学芸員さんから大昔の水口の歴史を教わった。アケボノゾウやミエゾウなど詳しく解説を受け、牙の長さ、耳の大きさ、前足の大きさ、鼻と牙の位置関係などさすが研究者は奥が深いなあ…。

続いて2階へ。壁面に「地球の秘密」(小6 少女漫画・国連グローバル賞受賞作品)の展示があり、環境学習についてさまざまに考えさせられた。

2階展示室では、水性昆虫担当の学芸員さんに、飼われているヤマトサンショウウオやヒキガエルなどを前に解説をしていただいた。また標本保管についての話では、展示の表に出せるものと保護のためのもの(展示には出せない、狙って採りに来られてしまう)を、どう区別するかなど、難しい点もあることをお聞きした。

その後ヒキガエルの餌やりを見学。ヒキガエルの4匹の中には餌取りが下手な子(小さめのオスか?)もいて、ガンバレ!って感じだった。ヒキガエルのお腹や胴体(かなり柔らかいお餅のよう)にも触らせてもらい、私は大満足!ヒキガエルのオスには抱きつく力があるがメスにはそれがなく、ことも実際に見せてもらった。

水槽の展示の高さなども、子どもたちの目線で見られるように工夫されていた。実物の個体には直接手で触れられなくても、その生態や目つき・表情から感じるものは大きい!! ここには「この生き物を見て感じてほしい! 守ってほしい!」という思いが結集されていると感じた。

以上



## (20) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大塚 泰介

### 【活動報告】

琵琶湖梁山泊の唯一の会員(中2)は現在、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」に出入りして、プランクトンや付着藻類の観察にいそしんでいます。同会に集う同年代や年上の仲間とともに、自分たちが進めている研究の話で盛り上がっています。6、7月は引き続き、ミジンコ類の甲殻表面にある模様のパターンについて、同学年の「観察する会」会員と議論していました。

### 【活動予定】

引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか?琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生や、研究が進展しすぎて先生の手には負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。まずははしかけ登録をして、上記のはしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ!



## (21) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:金尾 滋史

### 【活動報告】

■ 今のところ特に進展はありません。

### 【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。



## (22) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ担当職員:楊 平

### 【活動報告】

■ 令和7年5月7日(木) 9:00-12:00 晴 参加者 7名

1 活動先: 東近江市中戸町一帯

## 2 調査内容

中戸(なかと)町は、旧愛東町の南西部に位置し、東は妹町、西は鯉江町と境を接している。領域の東端の小字「奥之山」には山林に囲まれて中戸溜「奥之山池」があり、西は妹町同様に愛知川左岸まで広がっている。今回も前回同様、河岸段丘の上部に築かれた中世の城郭の名残りと集落の現状、生活用水、灌漑用水の実態について調査した。

## 3 調査結果

県道 217 号線の河岸段丘下面から坂道を上った中戸町集落入口のモダンな自治会館に駐車して集落内を散策した。公民館に隣接した小さな林が「鯉江の城」跡の土堀の名残りと掲示板に記されていた。集落内は道幅が縦横につながっているが、道幅は狭く、見通しは悪い構造になっている。城郭の周辺集落によくある侵入を少しでも阻止する道路図である。集落のはずれには茶畑が縁に沿って植樹され、北側の水田地帯の中には多数のビニールハウスも点在し名産の「愛東メロン」が生産されている。周辺を見渡すと集落北側の道の駅「マーガレットステーション」近くまで広がる水田は田植え作業が真っ只中であった。地形的に見て、昔の当地の水源地は付近の山、川からの谷水、溜池で集積後使用していた。つまるところの水には、苦労した地帯であったと言わざるを得なかったが、現在では河岸段丘上での用水確保に苦労した昔の面影はなく、愛知川ダムからの配水で一帯が圃場整備され、広大な水田地帯化している。



□ 中戸町公民館



□ 鯉江城土塁跡



□ 茶畑



□ 中戸町の集落道路

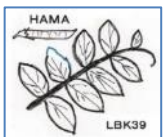


□ 愛東メロン栽培



□ 田植え前水田地帯

執筆者 小篠



## (23) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11 名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

\* 2025 年 6 月 2 日(月) 9 時 30 分～11 時 30 分

天候:くもり 気温:15°C(9 時 30 分) 琵琶湖の水位:+2cm 参加者:4 名

**観察状況** 曇り空。対岸の山裾だけが少し見える。波も琵琶湖も穏やか。浜は水位が下がり、枯れた葦やゴミが打ち上げられている。ゴミの中のハマヒルガオは枯れかけてきた。ハマゴウが浜いっぱいに広がり、琵琶湖に向かって伸びている。保護区内西側のセンダンの木や中央の若い松等が枯れてきた。(水不足か?)

**定点観測**



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

## 活動内容

1. ミーティング(今日の作業)
2. ハマエンドウの種鞘の確認(23本の番号旗を作成したが全然足りず区域別に確認)  
(推定)に1~3個の種鞘がついている。112個の種鞘を確認した。1枝の花軸に平均2.5個として全体として280個位の種鞘ができていると推測される。
3. 保護区域内近くのタケノコの地下茎除草(深さ30cm位の地下茎が保護区域に迫ってきた。)

## 海浜植物

**ハマエンドウ**:花の時期も終わりあちこちに種鞘が見られる。花は過去一番の多さだということだったが種鞘も多い。レンゲの植栽が功をなしたか。しかし、種鞘は小さい。

**ハマゴウ**:浜いっぱい新枝と葉が広がってきた。花芽が少しできてきた。

**ハマヒルガオ**:花は色あせ葉も枯れてきた。

**その他**:ネナシカズラは見当たらない。



ハマエンドウの種鞘



琵琶湖に伸びるハマゴウ



ハマゴウの花芽



色あせてきたハマヒルガオ



タケノコの地下茎深さ30cm



ハマエンドウの種鞘数

**\*2025年6月20日(金) 9時30分~11時30分**

天候:晴れ 気温: 26.5°C(9時30分)琵琶湖の水位:-17cm 参加者:7名

**観察状況** 近年にない暑さの梅雨の晴れ間。対岸の山は見えない。波も琵琶湖も穏やか。水位が下がり浜は枯れた葦やゴミが打ち上げられている。ハマゴウが浜いっぱい広がり花芽も膨らんできた。

コマツヨイグサがはびこってきた。

## 定点観測



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

## 活動内容

1. ミーティング(今日の作業)
2. タケノコの地下茎除去(深さ30センチ位の地下茎が保護区域に入り込んできた。3本除去。)
3. 保護区内除草(コマツヨイグサ・エノコログサ・カタバミ・コバンソウ等)

## 海浜植物

**ハマエンドウ:**全体的に暑さと水不足か？元気がない。所々に枯葉が目立つ。松の木の下や観察中の草の中はまだ緑も濃い。種の鞘も枯れかけ少なくなった。中央の太陽が当たるところは株も枯れ始めた。

**ハマゴウ:**浜いっぱい新枝と葉が広がり花芽も膨らんできた。

**ハマヒルガオ:**花は見当たらず、葉も枯れかけて種がついている。

**その他:**ネナシカズラは見当たらない。



変色してきたハマエンドウの種鞘



ハマエンドウの葉を汐井カタツムリが食べる



ハマゴウの花芽



ハマヒルガオの種

以 上

### 3. はしかけの皆さんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(11 月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もありますので、  
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

| タイトル                | 内容                                                                                      | 期日                          | 曜日     | 時間                          | 場所               | 備考                                           |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|--------|-----------------------------|------------------|----------------------------------------------|
| 季節の植物でアロマウォーターを作ろう！ | 季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。                                  | 2025 年<br>11 月 11 日         | 火      | 11 時 00 分<br>～<br>12 時 00 分 | 琵琶湖博物館<br>生活実験工房 | ※小学生以下は保護者同伴<br>※当日受付(受付時間 10:30～)<br>先着 5 名 |
| びわ博フェス 2025         | 滋賀県や琵琶湖流域をフィールドとした活動や、湖と人間のよりよい共存関係に繋がる活動を行っている団体等による、ワークショップ、展示交流、ステージ発表、ポスター発表等があります。 | 2025 年<br>11 月 15 日<br>16 日 | 土<br>日 | 9 時 30 分<br>～<br>17 時 00 分  | 琵琶湖博物館<br>館内各所   | 詳細プログラムは、確定次第ホームページに掲載いたします。                 |

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

9 月 7 日、10 月 11 日にそれぞれ稲刈りを実施しました。9 月(コシヒカリ稲刈り)はまだまだ暑い中での作業となり、とにかく熱中症対策を行いながらの実施でした。また、10 月(滋賀羽二重糯稲刈り)は途中、イネの生育が心配されましたが、無事に成長してくれ、当日は涼しい中での稲刈りとなりました。参加者の皆さんは、時折見られる生き物なども観察しながら、農作業を体験していました。今後のイベントは以下のとおりです。



9 月 7 日の稲刈り



10 月 11 日の稲刈り

#### 【活動予定】

開催時間：10:30～12:00(受付 10:00～) 場所：生活実験工房

※しがネット受付サービスによる事前申し込みが必要です。詳しくは博物館ホームページをご覧ください。

12 月 14 日(日) しめ縄づくり

2 月 8 日(日) わら細工

担当:環境学習・交流係

## 5. その他の事項

---

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4) はしかけ活動中に事故が起きたら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。